

- 1 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？
- 2 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？
- 3 埼玉県行田市の埼玉古墳群のひとつで、金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が出土したことで知られる古墳は何という？
- 4 5世紀ごろ、渡来人によって大陸から日本へもたらされた、記録を可能にする文字体系を何という？
- 5 5世紀、ヤマト王権が使いを送った、長江の下流域を中心に栄えた、中国の王朝群をまとめて何という？
- 6 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？
- 7 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？
- 8 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百済から来た人物は誰？
- 9 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？
- 10 埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、その名が刻まれているヤマト王権の最高権力者は誰？
- 11 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？
- 12 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？
- 13 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために中国の南朝へ使者を送った背景として、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？
- 14 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？
- 15 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？
- 16 稲荷山古墳などの出土品に名前が刻まれ、その支配が九州から関東まで及んでいたとされる大王は誰？
- 17 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？
- 18 大阪府に位置する、日本最大の前方後円墳として世界文化遺産にも登録されている古墳を何という？
- 19 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？
- 20 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？



① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。		倭の五王	☐
2	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。		江田船山古墳	☐
3	稲荷山古墳は、埼玉県行田市の埼玉古墳群にある前方後円墳です。		稲荷山古墳	☐
4	漢字は、渡来人によって『論語』などの書物とともに日本へ持ち込まれました。		漢字	☐
5			南朝	☐
6	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。		ヤマト王権	☐
7	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。		仏教	☐
8	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたとされています。		王仁	☐
9	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。		前方後円墳	☐
10	ワカタケル大王は、当時のヤマト王権の最高権力者で、一般に雄略天皇と同一人物であるとされています。		ワカタケル大王	☐
11	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。		聖明王	☐
12	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号と呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。		大王	☐
13	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。		朝鮮半島	☐
14	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。		ヤマト王権	☐
15	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。		副葬品	☐
16	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に象嵌で記されています。		ワカタケル大王	☐
17	宋書という中国の歴史書に登場する「讃・珍・済・興・武」の5人の王を指します。		倭の五王	☐
18	大仙古墳（伝仁徳天皇陵）は、墳丘の長さが約486メートルにも及ぶ日本最大の方後円墳です。		大仙古墳	☐
19	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。		論語	☐
20	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。		百済	☐

言えなかった用語ノート